子宮頸がん集団検診 受診者募集

子宮頸がんは子宮の入口付近にできるがんで、発生にはヒトパピローマウイルス（ＨＰＶ）の感染が関連するといわれています。

ＨＰＶは多くの人が感染し、通常は免疫力で自然に排出されますが、消えずに感染が継続すると子宮頸がんになる危険性があります。

早期に発見すれば治すことのできるがんです。年に一度は必ず検診を受けましょう。

▼対象　市内在住で20歳以上（平成６年３月31日以前生まれ）の女性

※次の方を除く（性経験のない方が希望する場合は要相談）

- 妊娠中または妊娠の可能性がある方
- ミニドッグ健診、７月の集団検診を受診した方
- 子宮疾患で治療中または経過観察中の方
- 今年度中に子宮がん医療機関検診を利用予定の方

▼内容　子宮頸部細胞診（ブラシで子宮頸部の細胞を採取）

▼検診会場　保健センター

▼料金　８００円（検診日当日に徴収）

※75歳以上（昭和14年３月31日以前生まれ）の方・無料クーポン対象者は無料

▼申込方法　９月24日㈫～10月４日㈮の期間内に電話、または保健センター窓口で直接申し込む

※受付時間は午前８時30分～午後５時15分まで／土・日曜日を除く

▼申込・問合先　保健センター　☎48・６０００

日　程
10月28日㈪
10月29日㈫
10月30日㈬
10月31日㈭
11月　1日㈮
検診当日の受付時間は13:00 ～ 13:45

国際交流員 ヨークさんの MORIYA滞在記

ドイツの迷信

今月は、またあの日がやってきます。13日の金曜日です。皆さんご存じと思いますが、アメリカやヨーロッパでは大多数の人が13日の金曜日は厄日だと思っています。今回は、ドイツの迷信について書きたいと思います。

13日の金曜日が不吉な日と言われるようになった由来ははっきりとはしないものの、キリスト教の影響を強く受けたドイツでは、イエスが金曜日に亡くなり、数字の13が昔から不吉な数字と考えられています。従って、その組み合わせから、不吉な日になってしまったようです。私は13日の金曜日に生まれましたが、迷信は信じませんし、厄日ではないと思います。むしろ、13日の金曜日に生まれたから、不幸を寄せつけないかもしれません（笑）。

四つ葉のクローバーがあれば、福をもたらすという迷信は日本でもよく知られていますが、「はしごの下を歩くと不幸が来る」という迷信を耳にしたことはありますか？　また、「誕生日前にお祝いを言うと、誕生日の人に不幸が訪れる」という迷信は知っていますか？　ドイツ人に対して、誕生日前にお祝いを言わないようにご注意ください。もちろん、当日が一番好ましいですが、後から言う分には問題はありません。

まだまだドイツの迷信はありますよ。ドイツでは、午前０時から午前１時までを Geisterstunde（ガイスターシュトゥンデ）（直訳＝お化けの時間）と呼び、幽霊が出る１時間なのです。調べてみると日本にも幽霊の時間があると、初めて知りました。でも、ドイツの「お化けの時間」は日本の午前２時から２時30分までの「丑三つ時」と違って、良い効果もあります。例えば、民間療法ではその１時間に特定のハーブを摘むと、薬としての効果が増すといわれています。

幽霊というと、日本でもドイツでもさまざまな怖いものがあると思いますが、ドイツにはキリスト教の守護天使のように守ってくれたり、人目を忍んで暮らす種族が二つあるそうです。

一つは、どんな船にもいる Klabautermann（クラバウタマン）です。Klabautermann がいる船はキーキーといった変な音がします。しかし、この音が消えた船は、Klabautermann がいなくなり、航行が危険と言われます。

もう一つは、Heinzelmänchen（ハインツェルメンヘン）と言い、普通の家庭に隠れ住む小人族です。伝説によると、夜、一緒に暮らす家族の仕事を代わりにしてあげたそうですが、ある夜、好奇心の強い奥さんに見つかり、消えてしまったそうです。それ以来、誰も彼らの姿を見ることはありませんでした。でも、本当にこの世から消えてしまったかは謎のままです。